

2009年3月27日 青森地方気象台発行

【3月19日～3月26日までの経過】

19日～26日にかけて、低気圧と高気圧が周期的に通過しました（図1）。

19日と22日は、低気圧に向かって暖かな南よりの風が吹き込みました。日最高気温は平年よりかなり高い「4月下旬～5月上旬並み」と桜や梅の咲く頃の暖かさとなった所が多くなりました。特に19日は、各地で日最高気温が3月の高い方からの順位で10位以内にランクインするほど高くなりました（全23観測地点中14地点）。

19日 日最高気温（3月高い方からの順位）

六ヶ所 18.4度（2位）、八戸 19.4度（8位）、青森 17.6度（10位）など

23日と26日は低気圧の通過後、気温が急低下し気圧の傾きが急となりました。三八の陸上では日中をピークに風が強まり、八戸では瞬間風速27メートル前後の突風が吹きました。**23日は三八上北に暴風警報**（5時30分～17時45分）、**26日は三八に暴風雪警報**（9時23分～16時47分）を発表し警戒を呼びかけました。

観測所	日最大風速（起時）	日最大瞬間風速（起時）
23日 八戸	南西 17.9m/s（12時33分）	西北西 26.2m/s（11時24分）
26日 八戸	西南西 19.0m/s（12時45分）	南西 27.5m/s（12時45分）

また26日は、上空約5000メートルに氷点下36度以下の寒気を伴った動きの遅い寒冷低気圧の影響により津軽中心に雪となり、夜には東青津軽に大雪注意報が発表されました。

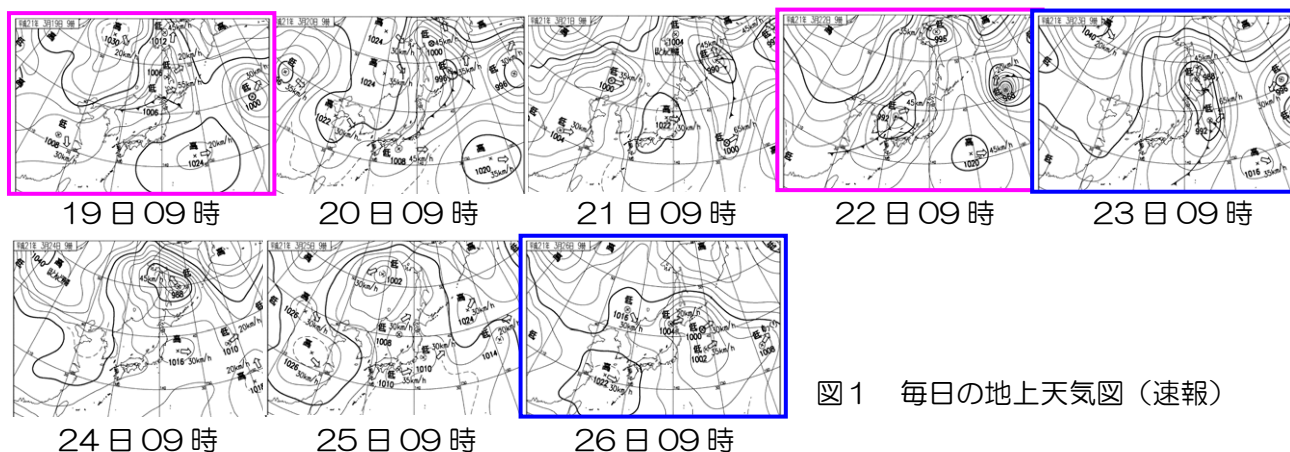


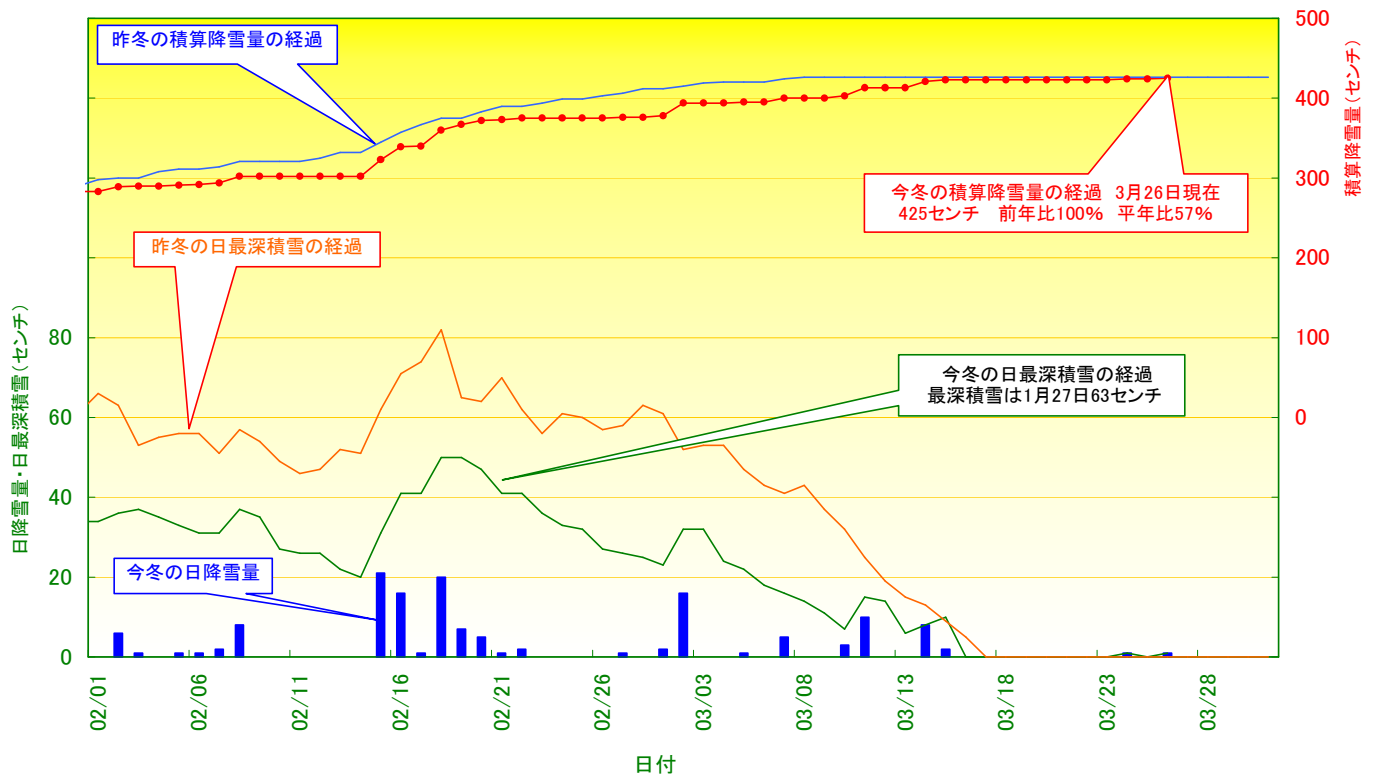
図1 毎日の地上天気図（速報）

【東北地方の今後一週間の見通し（3月27日11時発表）】※最新の予報をご利用下さい。

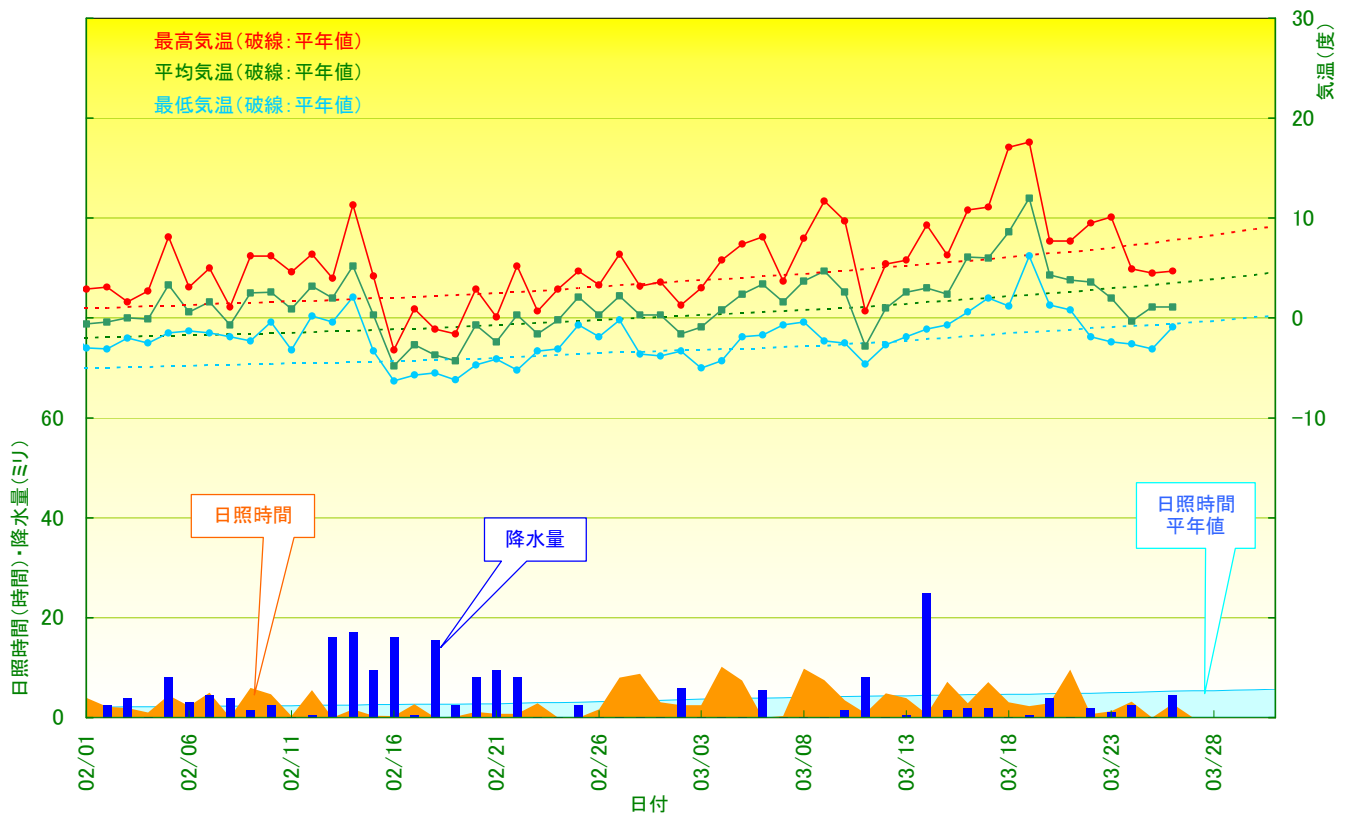
向こう一週間、日本海側では気圧の谷や寒気の影響で曇りや雪の日が多いでしょう。太平洋側では晴れる日が多いですが、期間の中頃と終わりには曇りで雨または雪の降る所がある見込みです。最高気温は期間のはじめは平年より低く、その後は平年並でしょう。最低気温は、平年並か平年より低い見込みです。

（この原稿の作成 技術課 石鳥）

【前月からの雪の経過図（青森）】2009年



【前月からの気象の経過図（青森）】2009年



5月の大雪って本当？

1. はじめに

3月初めに30センチあった青森の積雪もどんどん少なくなって、3月15日に積雪が「なし」となりました。气象台へも、「もう雪が積もるようなことはないですね」といった問い合わせが多く寄せられています。ただ、15日以降も上空に強い寒気が入り、一時的に雪の積もった日もありました。春の足音は、足踏みをしつつも近づいているようです。ただ、過去には4月になって10センチ以上も雪が降ったこともあるので、油断は出来ません。

さて、あおりゆきだより11号の今週の話「津軽の七つの雪ってどんな雪」で紹介した「昭和16年の東奥年鑑」に、なんと前年5月に大雪になったとの記事がありました。

昭和15年の気象

県南に珍しい大雪

五月二十一日降雨を見た県南地方南部方面は気温が急激に低下し二十二日から吹雪と変わり約一尺の降雪を見たが彼岸桜の満開に、この大雪となった事は県南地方として十数年来の珍現象であった。

(昭和16年の東奥年鑑より)

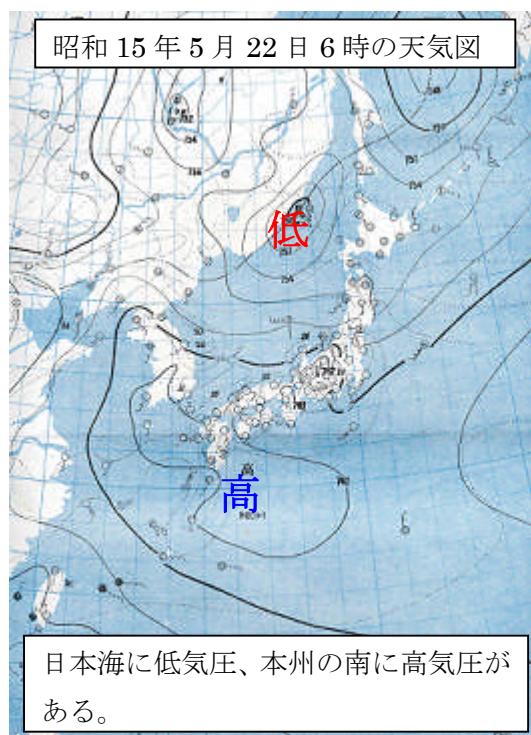
現在に比べると昭和20年前後は、気温も低く、雪が多かったようですが、それにしても5月に一尺(約30センチ)もの雪が降るとは驚きです。さっそくどのような状況だったのか調べてみました。

2. 5月22日の天気図

右は、昭和15年5月22日朝6時の天気図です。

雪が降っているはずなのですが、雪が降るような気圧配置ではありません。北海道の西の日本海北部に低気圧が、九州の南海上には高気圧があります。日本海の低気圧に向かって南から暖かな風が吹いて、青森県では気温が高くなる気圧配置です。実際に5月22日6時の八戸測候所の気温は、14.8度となっていました。雪など降るとは考えられません。さらに前日の21日には雨が降り始めているはずなのですが、天気図では、青森・八戸のどちらも曇りマーク(◎)となっていて雨マーク(●)がありません。

この日の青森の記録では4時52分から5時07分にかけて雨が降り、その後は薄雲が広がりましたが日差しが充分ありました。八戸では雨は降っておらず6時では曇りでしたが、その後は青森同様の天気でした。

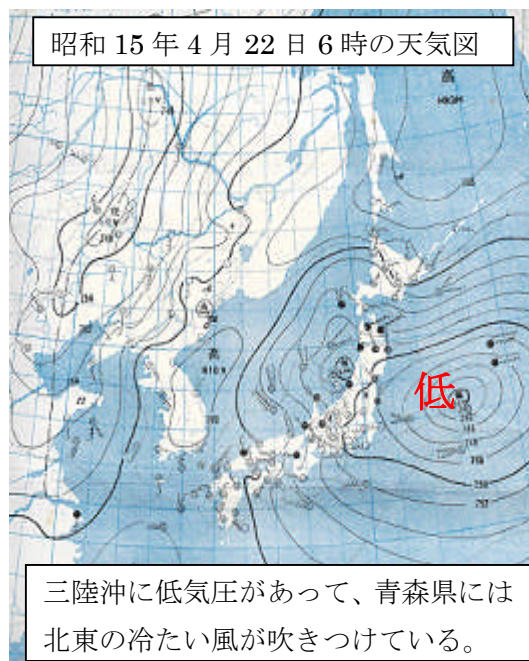


3. 彼岸桜の満開は、いつ？

さて、もう一度、東奥年鑑の記事をよく読むと、「彼岸桜の満開に・・・」とあります。彼岸桜は、その名のとおり春の彼岸の頃に咲き、他の桜よりも早く咲くそうです。「彼岸の頃に咲く」といっても、青森県では、実際に彼岸の頃（3月）に咲くことはありません。ただ、他の桜（ソメイヨシノなど）よりも早く咲きますので、「彼岸桜の満開」の頃と考えれば、5月22日は4月22日の誤りの可能性があります。

4. 4月22日の天気図

今度は4月22日の天気図を見てみましょう。三陸沖に低気圧があって、八戸や青森では、北東の風で雨となっています。春先に三陸沖を低気圧が進むとき、ちょうどこの4月22日と同じような気圧配置には八戸市など太平洋側で大雪となることがあります。従って、この気圧配置であれば雪が降っていてもおかしくありません。また、4月22日6時の八戸測候所の気温は、3.5度となっていました。沿岸部の標高の低い八戸測候所で気温が3度程度ですので、三八の山沿いでは、気温が0度前後となって雪が降っていてもおかしくありません。また、青森・八戸のどちらも天気図上では雨マーク（●）となっています。



この日の青森の記録では、前日から雨が降り続き14時40分で止んでいます。八戸でも青森同様に前日からの雨が13時20分に止んでおり、21日夜から東よりの風が非常に強くなっていました。また、気象台の古い資料では、三戸で10センチ前後の降雪があったことが確認できました。従って、地域によってはさらに多くの雪が降った可能性があります。

どうやら大雪と吹雪となったのは5月22日ではなく4月22日であったようです。

5. 青森・八戸の統計記録は？

青森地方気象台、八戸特別地域気象観測所（旧八戸測候所）での「日降雪の合計」の統計を見てみます。統計開始は昭和28年ですから今回の記事の昭和15年は含まれていませんが、4月の極値は青森では13センチ（平成8年4月12日と昭和43年4月20日）、八戸では19センチ（昭和54年4月3日）です。5月の極値では青森・八戸ともに0センチであり、昭和28年以降は5月に1センチに達したことはありませんでした。ただ、両観測所は海岸線近くにあるため、内陸部ではこれ以上に雪が降っていた可能性は否定できません。

4月の「日降雪量の合計」ベスト3（統計開始：昭和28年～）

	1 位	2 位	3 位
青森	13 センチ（平成8年4月12日）	13 センチ（昭和43年4月20日）	12 センチ（昭和35年4月2日）
八戸	19 センチ（昭和54年4月3日）	14 センチ（昭和43年4月20日）	12 センチ（平成11年4月7日）

6. おわりに

東奥年鑑の5月の大雪は、「まぼろし」だったようです。それでも4月の下旬に30センチもの雪が降れば大変なことには変わりなく、まさに「十数年来の珍事」といえます。

さて、何度も引用させていただいている東奥年鑑ですが、青森県の1年の出来事をまとめた総合年鑑で、昭和3年以降、東奥日報社から刊行されている歴史のあるものです。過去の東奥年鑑は、青森県立図書館や青森市民図書館で借りることができます。非常に興味深い記事が多く、つい読み込んでしまったのですが、広告を眺めるだけでもその時代の鼓動を感じることができました。みなさんも一度図書館で手にとって青森県の歴史・文化を振り返ってみてはいかがでしょうか。

最後に、昭和16年の東奥年鑑の気象データは青森測候所（現在の青森地方气象台）が提供していたと考えられます。「まぼろし」の5月の大雪の原稿も、青森測候所から提供された資料が誤りだった可能性があることを書き加えておきます。

（天気図は、青森地方气象台所蔵の印刷天気図を利用しました。）

（この原稿作成 技術課 安藤）

掲載したデータは速報値であり、品質管理によって後日修正される場合があります。



気象庁

国土交通省 気象庁 青森地方气象台
〒030-0966 青森市花園一丁目17番19号
電話 017-741-7411



国土交通省